

地球の「いきいき」のために

# 「緑字決算」を公表します

「事業活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為である」ということを真摯に受け止め、地球環境への負荷削減や自然保護活動に努めています。これらの活動結果を「緑字決算 (ECO)」という独自の指標として公表します。

## 宝グループ環境方針

### 1. TaKaRaの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」この基本理念に基づいて、宝グループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

### 2. 基本方針

宝グループの業務内容は、宝グループ全体の経営資源配分等グループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒精事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基づき活動します。

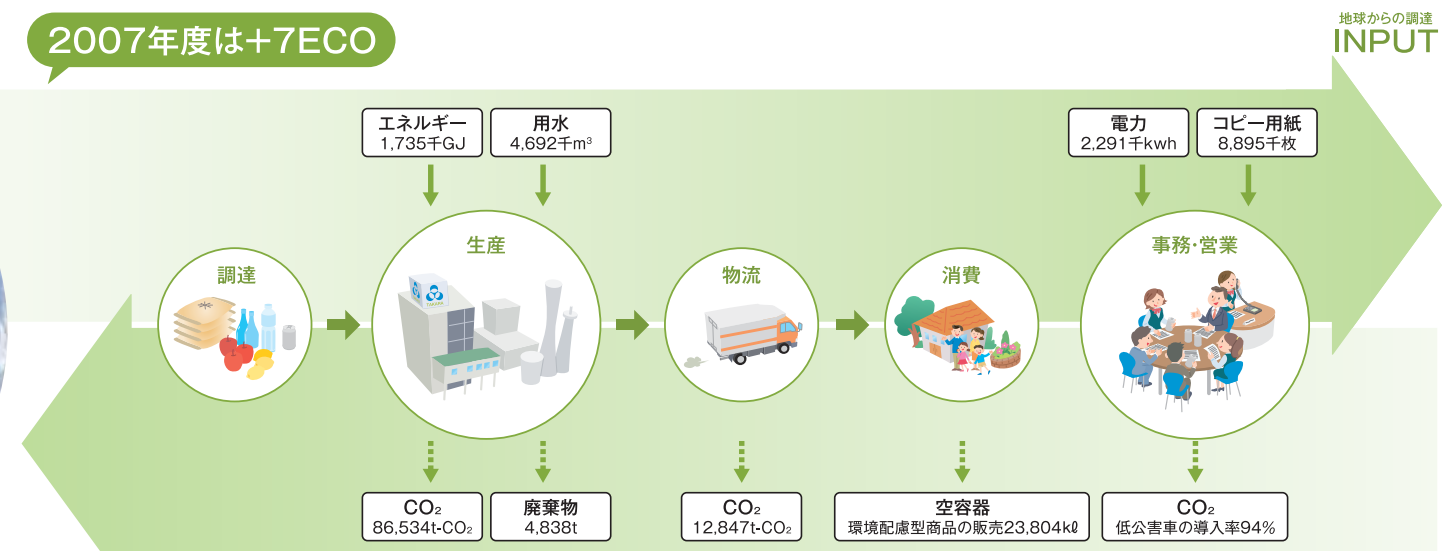
- (1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
- (3) 環境に関する法規制及び組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
- (5) 宝グループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
  - ① 天然資源を大切に、省資源・省エネルギーに努めます。
  - ② 環境に配慮した商品開発に努めます。
  - ③ グリーン購入に努めます。
  - ④ 環境活動への取組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- (6) 本環境方針は、教育啓蒙活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2004年4月1日  
宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
宝酒造株式会社 代表取締役社長  
大宮 久

(注) ISO14001における宝グループは、宝ホールディングス(株)、宝酒造(株)、(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)で構成されています。



2007年度は+7ECO



※その他、社員のボランティア活動参加人数と社会貢献活動費用も緑字決算の対象としています。

## 2007年度の緑字決算結果は、+7ECOです

2007年度の目標(+4ECO)を達成することができました。

2007年度の緑字決算は、目標としていた+4ECO(基準年2004年度比)を上回る+7ECOとなりました。

これは、物流部門のCO<sub>2</sub>排出量の削減や営業車の低公害車への転換が順調に進んだうえ、前年度に大きなマイナスECOとなっていた生産部門4項目すべてで改善がみられ

たことが目標達成の主要因です。生産部門4項目については、工場での省エネ、省資源活動により生産効率をあげ、生産量の増加や製品構成の変化があっても、プラスECOとなるよう更なる改善を進めていきます。(参考:2006年度緑字は-1ECOでした)

## 緑字とは

経済活動の成果を一般的に「黒字」「赤字」と表現することから、環境活動の成果を表現する言葉は何字だろう?と考えた時、環境=緑のイメージから1998年に「緑字」という言葉が生まれました。以来毎年「緑字決算」として宝酒造の環境活動の取り組み結果を公表しています。

## 緑字決算とは

「緑字決算」とは、宝酒造のさまざまな環境負荷や環境配慮、社会的活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を「ECO (エコ)」という一つの指標で表したものです。一つの指標で表現するのは、単位や重要度の異なる活動の成果が、結果的によかったのか悪かったのかということ誰にでもわかりやすく理解していただくためです。

## 緑字決算の算出方法

緑字決算の対象となる11項目は、それぞれ単位が違うため、単純にたし算することができません。そこで、各項目の改善率に「重み付け係数」を掛けた「個別ECO」を平均して、緑字決算 (ECO) を算出します。改善された場合は「プラスECO」、その逆は「マイナスECO」で表します。重み付け係数とは、各項目について「宝酒造が取り組むべき重要度」という観点で、有識者5名、宝酒造環境担当者5名、インターネット上で市民137名が行った5段階評価を係数化したものです。

1: 緑字決算対象項目選定と重み付け投票詳細

$$\text{個別ECO} = \text{各項目ごとの改善率} \times \text{重み付け係数}$$

	生産		物流		オフィス		販売		社会		
	エネルギー 使用量	用水 使用量	CO <sub>2</sub> 排出量	廃棄物 排出量	CO <sub>2</sub> 排出量	電力 使用量	コピー用 紙使用量	営業車の 低公害車 導入率	環境配慮 型商品 販売量	社員のボラ ンティア活 動参加人数	社会貢献 活動費用
(単位)	千GJ	千m³	t-CO <sub>2</sub>	t	t-CO <sub>2</sub>	千kwh	千枚	%	千個	人	百万円
2007年度	1,735	4,692	86,534	4,838	12,847	2,291	8,895	94	23,804	578	105
2004年度	1,475	4,332	83,235	4,338	19,929	2,326	9,593	44	34,165	395	97
A)改善率(%)	-17.6	-8.3	-4.0	-11.5	35.5	1.5	7.3	50.0	-30.3	46.3	8.2
B)5段階評価	3	3	5	3	4	3	2	4	4	3	3
C)重み付け係数	0.89	0.89	1.49	0.89	1.19	0.89	0.60	1.19	1.19	0.89	0.89
A)×C)個別ECO	-15.7	-7.4	-5.9	-10.3	42.3	1.3	4.3	59.5	-36.1	41.4	7.3

重み付け係数 =  $\frac{\text{各項目の5段階評価}}{\text{11項目の5段階評価の平均}}$

緑字決算 (ECO) =  $\frac{\sum \text{個別ECO}}{11}$

2: 環境データ算出方法

3: 過去の緑字決算結果

2007年度  
緑字決算 (ECO)  
7.3

お客様の「いきいき」のために

社会の「いきいき」のために

地球の「いきいき」のために

社員の「いきいき」のために

信頼される企業であるために

お客様の「いきいき」のために

社会の「いきいき」のために

地球の「いきいき」のために

社員の「いきいき」のために

信頼される企業であるために